

町内6小中学校が「学校情報化 優良校」の認定を受けました！



▲電子黒板を使用した授業風景



▲タブレットを活用した授業風景



▲野外授業でのタブレット使用例



▲ICTで生徒と先生がともにつながる

「Q1 電子黒板は具体的にどのように使っていますか？」
教科書のページを大きく映したり、自分のノートを映して書き込みながら説明するなど、2つのノートを同時に映して、考え方を比較したりするのに役立っています。

「Q2 タブレット端末は、どのように活用していますか？」
撮影機能をさまざまな場面で活用しています。例えば、子どもたちが毎日の天気を写真に撮り、それをまとめて発表したり、アプリを使って他の人の意見や考え方を共有することにより、積極的に友だちと話しながら考えを深める学習ができます。

「Q3 ICTを活用した授業に対し、子どもたちの様子は？」
自分でタブレットを使いながら、意欲的に授業へ取り組んでいます。デジタル教材を使うことで、何度も繰り返し追求し、自分の考えをきちんと創り出す姿が見られ、子どもたちが主体的に楽しく学ぶことにつながっていると思います。

「Q4 先生方はどのような研修を？」
まずは使ってみて、その様子を他の教員と情報交換するようにしています。また、先進地視察で学んだ内容を他の教員と共有したり、その手法を実践したりしています。さらに、ICT支援員によるサポート体制を生かし、効果的な活用方法や機器の使い方を学ぶようにしています。

「Q5 今後、どのような形で活用を広げていきたいと考えていますか？」
テレビ会議システムにより、学校に居ながら他校と合同授業を行ったり、バーチャル博物館といったリアル感のある学習教材を得たりすることができればと考えています。また、4年目を迎えた学校間のRG授業でも、タブレット端末を活用した学習を積極的に行っていきたいと思っています。

「Q6 学校情報化優良校の認定を受けた感想を教えてください。」
大変ありがたいことだと思っています。
「ICT機器の効果的な活用で子どもたちの学びの可能性を広げる」ことが、学力の向上にもつながります。
私たち教員は、その研鑽のチャンスをいただいたと考え、さらなる活用を進めていきたいと思っています。

【学校情報化優良校とは】

日本教育工学協会(JAET)が、教育の情報化の推進を支援するために取り組んでいる、総合的に情報化を進めた学校を認定する学校情報化認定事業の一つ。

「情報化の推進体制」を整え、「教科におけるICT活用」「情報教育」「校務の情報化」に積極的に取り組んでいる学校を称えるため、毎年、学校情報化優良校として認定しています。川根本町では、平成29年度に全ての小中学校で優良校の認定を受けました。

「川根本町が推進するICT教育の特長について」

平成29年8月、町内の小中学校6校に校内無線LAN、全ての普通教室に1台以上の電子黒板と書画カメラ、全児童生徒と教職員にタブレット端末が配備されました。

このICT環境を活用し、小規模校ならではの一人一人を大切にしたい授業を各校で展開しています。

まず、ICT機器の導入により、従来の方法では難しかった「課題の焦点化を図り、必要な情報を共有させる」といった教え方が容易になり、教員の工夫によるわかりやすい授業づくりが可能となりました。

特に、授業や教材準備などの時間を短縮し、授業中に課題を追求する時間を十分に確保することにより、子どもたちの主体的な学習を創り出すことができます。また、本町のICT教育は、できるだけ使用制限をせず、情報機器が使える日

常に近い環境の中で「きちんと教えるべきことは教える」という教育方針を取っていることも重要です。子どもたちに必要な情報リテラシー(情報を使いこなす力)教育と情報モラル(情報を適正に扱う考え方や態度)教育を、小中学校の9年間を見通して計画的に積み上げ、ネット犯罪などに巻き込まれない知識と活用能力を育みます。



▲認定証を持つ中央小6年生

実際の取り組みについて、先生方に聞いてみました。

